

夏がやってきます ご家庭での節電対策にトライ！

～経済産業省から今夏の節電へのご協力をお願いします～

☆ 15% 以上の節電にご協力を！

7月2日(月)～9月7日(金)の午前9時～午後8時の間(土曜・日曜日、祝日、8/13～15は除く)、15%以上の節電にご協力をお願いします。

なお、それぞれの事情のもと、無理のない範囲でご協力をお願いします。(使用していない部屋の電気はこまめに消す等)

■家庭の節電メニュー

「節電メニュー」の中から、それぞれのご家庭で実施できるものをチェックして、以下の削減率を目安としてご協力をお願いします。

- ①エアコン／室温 28℃ を心がける…10%
- ②“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげる(エアコンの節電になります)…10%
- ③無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する…50%
- ④冷蔵庫／設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込み過ぎないようにする…2%
- ⑤照明／日中は不要な照明を消す…5%
- ⑥テレビ／省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消す…2%
- ⑦温水洗浄便座／温水のオフ機能、タイマー節電機能を利用する
- ⑧温水洗浄便座／オフ機能がない場合、使わない時はコンセントからプラグを抜く…⑦または⑧の対策により 1%
- ⑨ジャー炊飯器／早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて冷蔵庫や冷凍庫に保管する…2%
- ⑩待機電力／リモコンの電源でなく、本体の主電源を切る。長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く…2%

※在宅家庭の日中の最大使用時(約 1,200 W)に対する削減率の目安(資源エネルギー庁推計)

■「需給ひっ迫お知らせサービス」への登録を

万一、電力需給のひっ迫が予想される場合に、携帯電話・スマートフォンにお知らせします。登録をお願いします。

携帯電話…右の QR コードまたは <http://mail.setsuden.go.jp> にアクセス

スマートフォン…App Store または Google Play にアクセスし“節電アクション”で検索



■クールスポットを設置します！(7月1日～9月30日)

近くで涼しく過ごせる場所としてご利用いただけます。

▽市役所本館 1 階・西別館 1 階、野洲地域総合センター 1 階、野洲市健康福祉センター (月)～(金) 8:30～17:15

▽野洲図書館・市民活動支援センター (火)～(金) 10:00～20:00、(土)・(日) 10:00～18:00 (日) 17:00

▽歴史民俗博物館 (火)～(土) 9:00～~~16:30~~

▽各コミセン (8:30～17:15、休館日／ぎおう(火)・(水)、しのはら・やす・ひょうず(月)・(火)、みかみ・きたの・なかさと(水)・(木))

※コミセンは、臨時休館する場合があります。



◆環境課

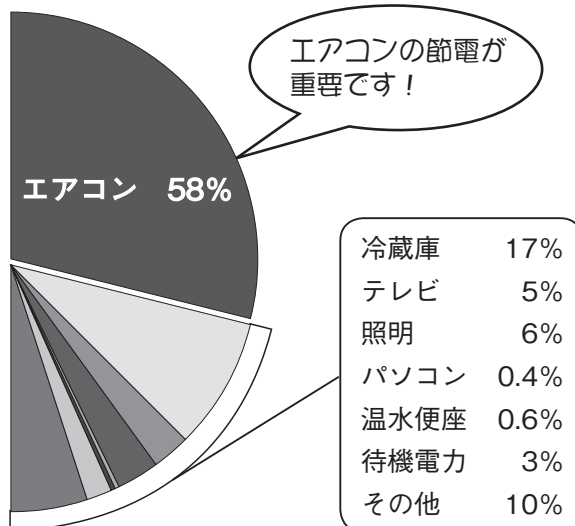
☎ 587 - 6003

FAX 587 - 3834



■家庭の電気機器の使用例

※夏昼間(午後2時頃)在宅世帯の電気機器の使用例(資源エネルギー庁推計)



■節電・電力需給に関する情報は…

▽政府の節電ポータルサイト「節電 .go.jp」

<http://www.setsuden.go.jp>

▽経済産業省ホームページ

<http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html>

▽関西電力ホームページ

<http://www.kepc.co.jp/>

毎月第4土曜は 廃食油回収の日

7月28日(土) 午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587 - 6003、エコロジーマー
ケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(94)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【休館日】 月曜日・7月17日(火) (7月16日(祝)は開館) ※市民は入館無料

◆夏期企画展・昭和の大発見 50年「大岩山銅鐸と近江」／7月21日(土)～9月2

日(日) 展示解説…7月28日(土)午後2時～

記念講演「研究史に輝く大岩山の銅鐸たち」

8月11日(土)午後2時～4時／講師…水野正
好さん (奈良大学名誉教授)

◆第4回弥生の森写真展・ふおれすとフォ
トギャラリー／9月2日(日)まで

※展示作品募集中

◆弥生の森七夕のつどい／7月7日(土)午
前11時～正午 ※ドウタクくんも参加

◆古代のハス「大賀ハス」7月下旬頃ま
で開花



明治14年発見の11号銅鐸

大岩山出土の銅鐸

—明治の発見—

銅鐸は弥生時代中期に誕生しました。その祖形は朝鮮式小銅鐸にあると言われ、日本で独自の発展を遂げます。

全国でおよそ500個が出土し

ている銅鐸ですが、そのほとんどが土砂採取や道路工事などによる偶然的な発見で、発掘調査による出土事例は極めてまれです。銅鐸の出土分布は、東は静岡県、西と南は佐賀県、北は長野県までがその範囲です。分布の密度は、近畿・東海と四国東部、山陰地方が高

くなっています。銅鐸の出土個数が多い府県は、兵庫県56個、島根県54個、徳島県42個、滋賀県41個、和歌山県41個です。

ところで銅鐸という名称は、「扶桑略記」と言う歴史書の天智7年(668年)に、大津市滋賀里の崇福寺建設工事で出土した銅鐸を「宝鐸」と、また「続日本紀」(713年)に奈良県宇陀郡長岡野で掘り出された際には「銅鐸」と記しています。

日本では古代以来「鐸」は、吊り下げる取っ手(鈕)と筒内部に振り子状の舌を伴っていて、この舌が「鐸」の内側をめぐる凸帯にあたり音が鳴るのです。そのため内側の凸帯は、擦り減っていることがあります。

このように鳴らすことで銅鐸は、弥生時代の大きな集落の祭りに使われていたと想像されています。弥生時代後期になると銅鐸は、高さがおよそ50cm以上に肥大化し、やがて吊り下げて鳴らす機能を失って、威厳を持った祭りの道具へと変化していったと考えられます。その最も顕著な事例が、1881(明治14)

年に小篠原の大岩山で発見された日本最大の銅鐸です。高さ134・7cm、重さ45・47kgをはかり、鳴らす機能は持ち合わせていません。このような銅鐸の機能変化を「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へ移行したと考えられています。

明治に発見された銅鐸はこの最大銅鐸を含む14個で、1962(昭和37)年にも新幹線の土取工事で10個の銅鐸が出土しています。このうち明治の最大銅鐸(1号鐸)と銅鐸下部に水鳥を描いた銅鐸(2号鐸)は、現東京国立博物館が明治15年に代価40円で購入しています。そのほかの明治の銅鐸12個は、遺失物の

届け出を受けた草津警察署から地元へ戻されました。その後これらの銅鐸は散逸し、現在は国内の博物館や大学、アメリカやドイツの美術館で保管されていますが、いまだ2個の行方は明らかではありません。

今回の博物館夏期企画展は、昭和の大発見50年「大岩山銅鐸と近江」と題して、明治・昭和発見の銅鐸と湖南の弥生遺跡から出土した遺物を通して大岩山銅鐸の謎に迫ります。

(博物館学芸員 徳網克己)